

標準作型

△印・定植

□印・収穫

作 型	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
露 地				△	△							

**栽培のポイント**

ナス科のトマト・ナス・ピーマン・ジャガイモ等は青枯病などの土壌病害虫が発生しやすいので、連作を避け、ナス科作付けを3~4年以上空けること。最近、トマト黄化葉巻病（ウイルス病）が問題になっているので、コナジラミ類の防除を徹底し、発病株（生長点が萎縮し、葉の周辺が黄色くなる）は除去しなければならない。

**品 種** 桃太郎 8 (タキイ) : 露地の定番的品種。草勢維持が難しく上段は小玉傾向になる。  
麗夏 (サカタ) : 実が堅く、軟化しにくい。完全に赤くなってから収穫すると良い。  
桃太郎ファイト (タキイ)、桃太郎 8 よりやや果実が小さいが食味が良い。

**畑の準備** 苦土石灰 (10kg/a) ・堆肥 (100kg/a) は1ヶ月前に施しておく。  
**元 肥** 生育初期に窒素分を多く与えすぎると茎葉が育ちすぎるので、基本的に、実がなり始めるまでは、肥効を抑える必要がある。CDU などの初期の肥効が少ないものがよい。また、全面散布施肥では肥料が表層に偏るので、初期生育が旺盛になりすぎ、後期の生育が維持しにくい。この欠点を改善するために、全面散布分の肥料を施肥したあと、植え床の中央に幅 40 ㍍、深さ 50 ㍍くらいの溝を溝掘り機で掘り、溝施肥分の肥料を溝の中と盛り土の均一に散布して、土と肥料をよく混ぜながら溝を埋め戻す方法がある。この場合は全面散布施肥の場合より、1a 当たり成分量で窒素とカリが 0.5kg、リン酸が 3kg 程度を上乗せして適宜配分して施用する。

(1a 当たり使用量)

CDU 磷加安 S555 号タマゴ	7 kg	定植前
ようりん	5 kg	

**定 植** 一段目の花が咲き始めた頃に定植する。※ 株間 40~45 ㍍、うね幅 70~90 ㍍  
定植本数の目安 : 240 本/a (苗の根付きを良くさせるために必ず支柱を立て誘引する)  
定植後から活着まではかん水をこまめに行うが、活着後から 3 段目の花房が咲くまでは控えめにする。

**仕立て・誘引** 基本的には合掌型に誘引支柱を組む。生長を見越して、ゆるめに支柱に 8 の字に結う。  
**整 枝** 花房のすぐ下から出るわき芽は勢いよく出るので、小さいうちにかき取る。  
**追 肥** 第 4 花房と第 7 花房が開花した時に行う。草勢が弱い時は少し早めに行う。

(1a 当たり使用量)

NK化成 2 号	3 kg	第 4 花房開花時
		第 7 花房開花時

**摘 芯** 作業が可能な高さで摘芯する (目安は 8 段程度)。  
**着果促進** 1 段目の果実から着実に着果させるため、3~4 花咲いたらトマトトーンを霧吹きで、1 回花にかける (気温が高い時は倍率を薄めにする)。

**摘 果** 果実がピンポン玉くらいになった頃に、1 段目は 2~3 果それ以降は、1 果房に 4~5 個を残して摘果する (奇形果と小果を優先して除去しておく)。

**病虫害防除** 梅雨前から疫病対策に予防剤を散布する。また、ウイルスを媒介するアブラムシ類、コナジラミ類、アザミウマ類の防除を徹底し、6 月頃から気温の上昇とともに、大型のガの幼虫 (オオタバコガ、ハスモンヨトウ) が増えるので、適宜防除する。

**収 穫** なるべく早朝に、果実が十分に着色してから収穫する。